

「産学連携」で何が起きているのか

2012年6月8日（金） 18:30-20:30

「産学連携」という用語が定着したのは1990年代後半になってからのことです。大学の学術成果を企業に移転する、あるいは産学が共同で研究活動を実施する行為は、「イノベーション」という概念と結びつきながら、社会的にもある程度の認知がなされたように思えます。

「産学連携」は科学・技術と社会との関わりを考える上で重要な局面のひとつです。また、産学が相対する「現場」で行われている対話はサイエンス・コミュニケーションの一形態であるともいえるかもしれません。今回は「産学連携」の現状と課題について、特に地方からみた状況をご紹介しますと共に、近年議論が活発になっている支援組織や支援人材についても触れたいと思います。（ゲストより）

ゲスト 前波 晴彦 氏 鳥取大学 産学・地域連携推進機構 講師

技術系出版社、（独）科学技術振興機構などを経て現職。現職では産学連携活動の支援に加えて、大学の公開講座など生涯学習的な業務も担当しています。

会場 京都大学 物質－細胞統合システム拠点 本館 2階セミナー室

*京都市バス「京大正門前」下車すぐ。

*「東山東一条」交差点 北西角。

定員 30名程度

*17時以降は建物の鍵が閉まるので、外からは入れません。

*お申し込みの方には、前日までにこちらの電話番号をお伝えします。

*到着が18時半より遅くなることが予想される方は、事前にご連絡下さい。

持ち物 （おながさがすく時間なので）

夕ご飯をご持参ください。

主催 科学コミュニケーション研究会 関西支部有志
水町 衣里（京都大学）、加納圭（滋賀大学）



お申し込みはコチラから → <http://bit.ly/ITvJL5>